

インターバンクの声（2015年3月23日）

先週の米連邦公開市場委員会（FOMC）が終わった後も、米国の利上げ時期を巡っては、従来通り6月や9月になるとの予想と年末や年明けまで後ずれすることになるとの見方が日々入れ替わるような毎日が続いていた。そうした暫らく続いた不安定な相場観が、先週金曜日になって米国の金利上昇のペースがこれまでの想定よりも遅れることになりそうだとの見方に大きく傾くと、ドルが多くの主要通貨に対して大幅に下落する動きとなった。特に対ユーロでの下落幅が大きく、東京市場の夕方とニューヨーク市場の終盤を比べると、実に200ポイント以上も値下がりした。対円や対豪ドルでの値下がりもかなりのスピードだったが、下げ幅は対ユーロほどではなかった。ただ、対円では節目となる120円を割り込んできたこともあり、19日の日本時間未明のFOMCの声明発表後に一気に下げた底値から少し戻した119円75銭前後を守れるかどうかで、今週のドル円の方向性が決まることになるかも知れない。ニューヨーク市場では、金利の上昇が遅れるとの見方が株価の上昇に繋がったが、国内ではどこまで株価の動きが為替に影響するのかにも注目だ。

提供：SBIリクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。